

災害公衆衛生学 / 分子疫学 分野

「ソナエル、ニゲル、タチナオル」

公衆衛生学では、健康状況把握、法律制定、文化としての健康行動の定着など様々な手段を用いて国民健康運動を展開してきました。防災対策においても、同様の手法を用い、災害に対する備えや対応を格段に進めるための貢献を果たしたいと考えてます。当教室の教授である栗山進一が所長を務める災害科学国際研究所と連携して「ソナエル、ニゲル、タチナオル」をキーワードに、拡がりのある防災運動に結びつけていきます。



災害科学国際研究所

人生のあらゆる場面を健康に

中高年期の病気の多くは、遺伝的な要因と胎児期からの環境要因が関与すると言われています。世界初の研究デザインである「出生三世代コホート調査」により、胎児期から人生の各場面で有効な健康向上策を明らかにします。約7万名の方にご参加いただいております。現在も追跡調査を行っています。



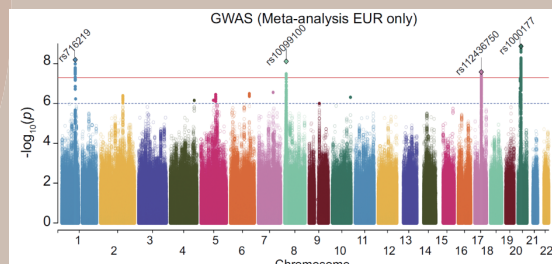
東北メディカル・メガバンク



三世代コホート調査
@Satoko

多因子疾患の病態を解明する

分子疫学とは実際の人を観察する研究手法である疫学を基礎とし、そこにゲノム医学や人工知能解析技術などが融合した新たな学際的領域です。この分子疫学的手法を用いて、自閉スペクトラム症をはじめとする多因子疾患の病態を解明します。



N Matoba. *Transl Psychiatry*. 2020

教授よりメッセージ



教授 栗山進一

私たちの教室は、3つのミッションを達成すべく、世界初の研究デザインである三世代コホート調査を計画、実施し、そのデータの解析によって新たな知見を得て社会に還元し続けています。世界初ですからやることはすべて世界で初めてで、その困難さを体感することができると同時に、その潜在的なパワーを実感して多くの知見を創出するチャンスを得ることができます。若い世代からの質問やアイデアをお待ちしています。オープンキャンパスが実り多いものになるよう、全力でサポートいたしますので、是非交流を深めましょう！

さらに知りたい方へ



三世代
コホート調査



災害公衆衛生学分野
分子疫学分野



研究者の独り言



教室公式
ウェブサイト